



2014年3月期第2四半期 決算説明会

2013年11月1日
日本ユニシス株式会社

全体総括

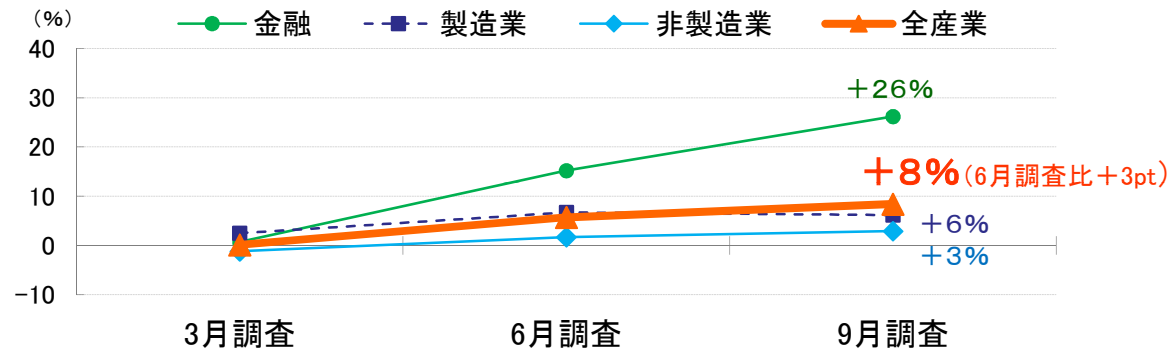
決算概要

中期経営計画(2012→2014)の進捗

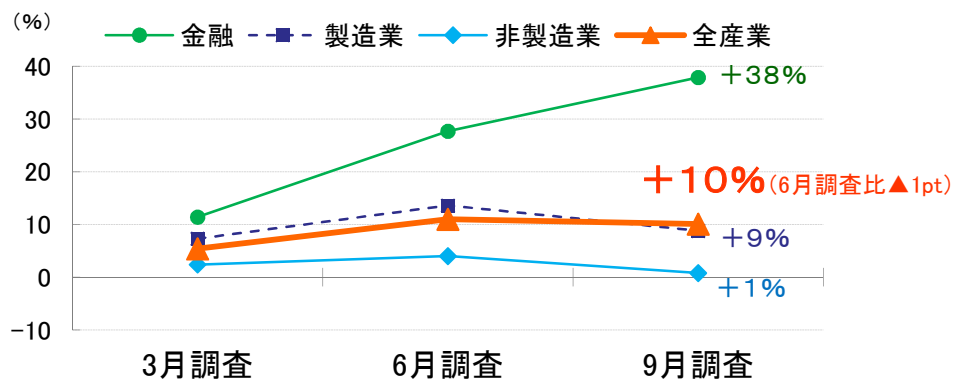
✓企業のIT投資は金融が牽引し回復基調に
 ✓下期の事業環境も回復が見込まれる

日銀短観 2013年度ソフトウェア投資計画(前年比)

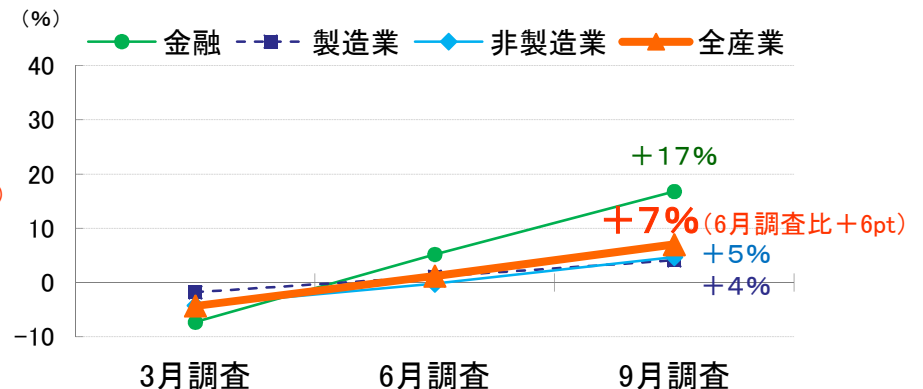
【通期】



【上期】

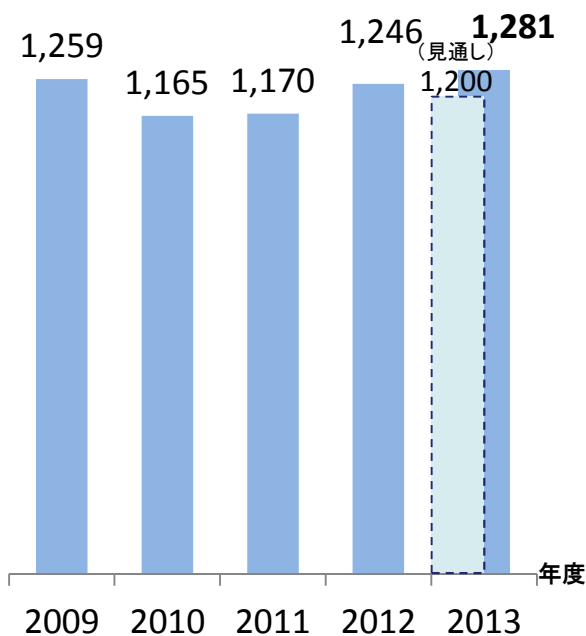


【下期】

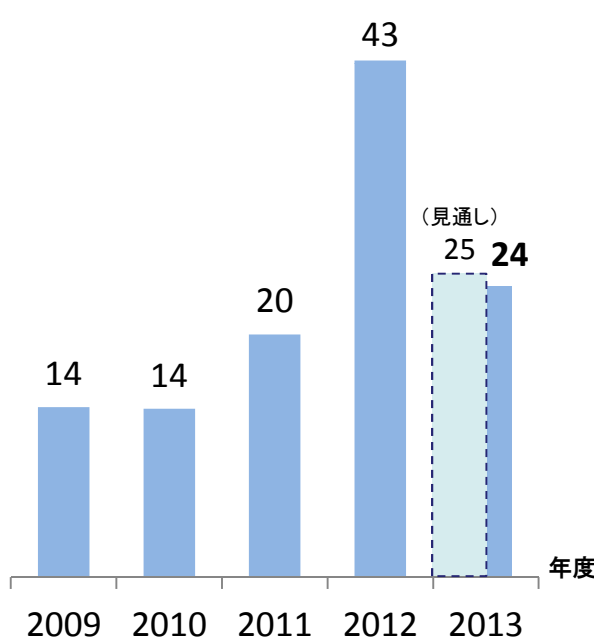


- ✓ 売上高は、前期および計画を上回り好調に推移
- ✓ 営業利益は、前期の高採算案件の反動減をカバーしきれず
- ✓ 重点分野への投資強化も、コスト削減は着実に進捗

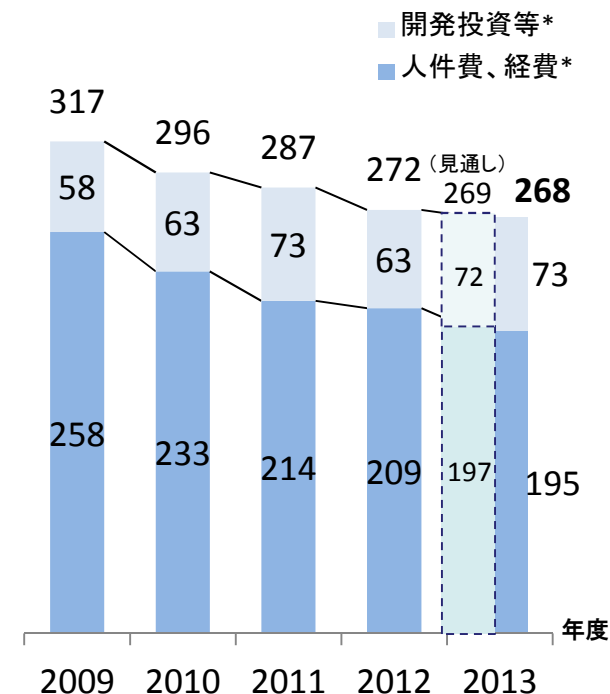
上期売上高(億円)



上期営業利益(億円)

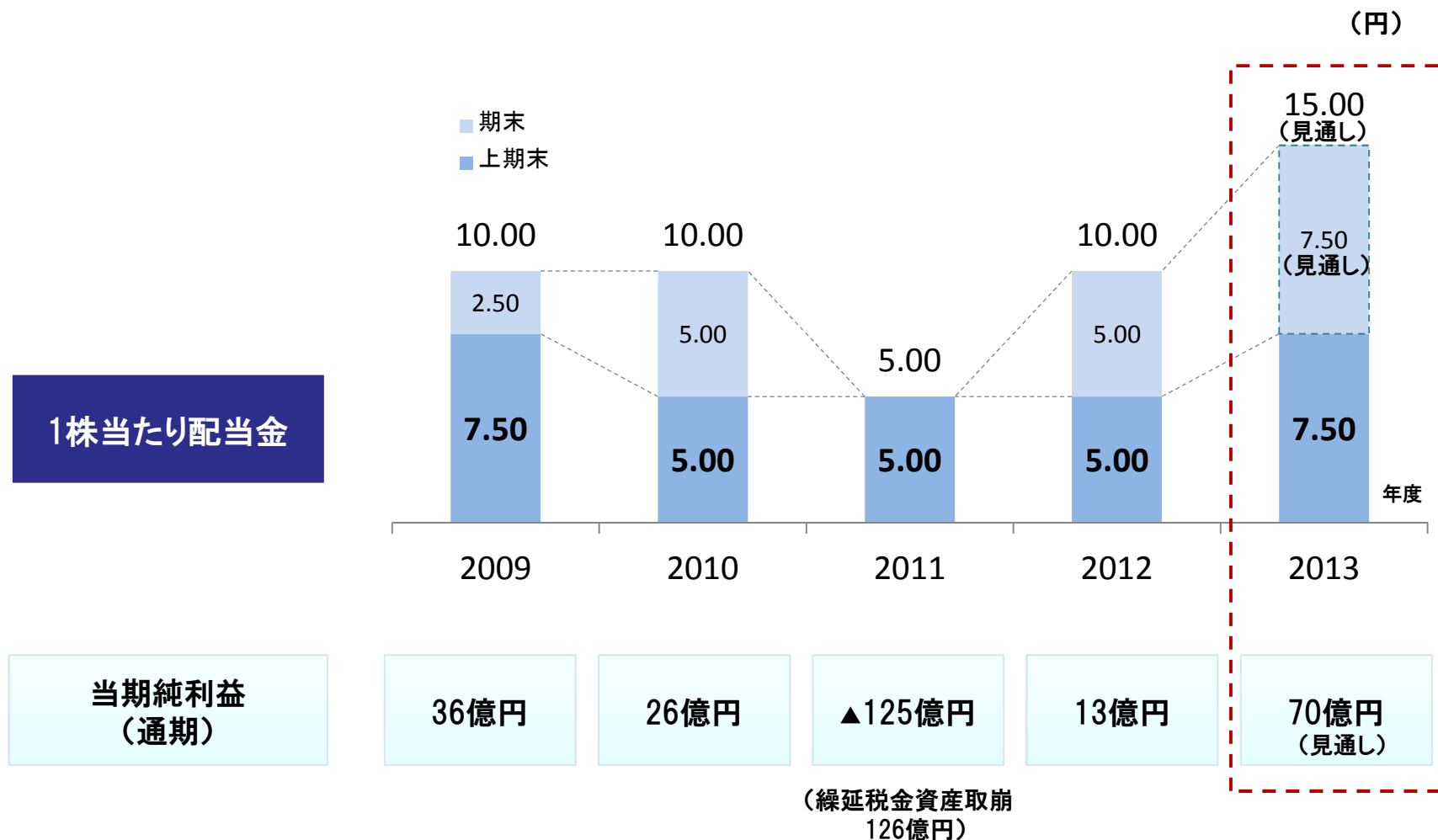


上期販管費(億円)



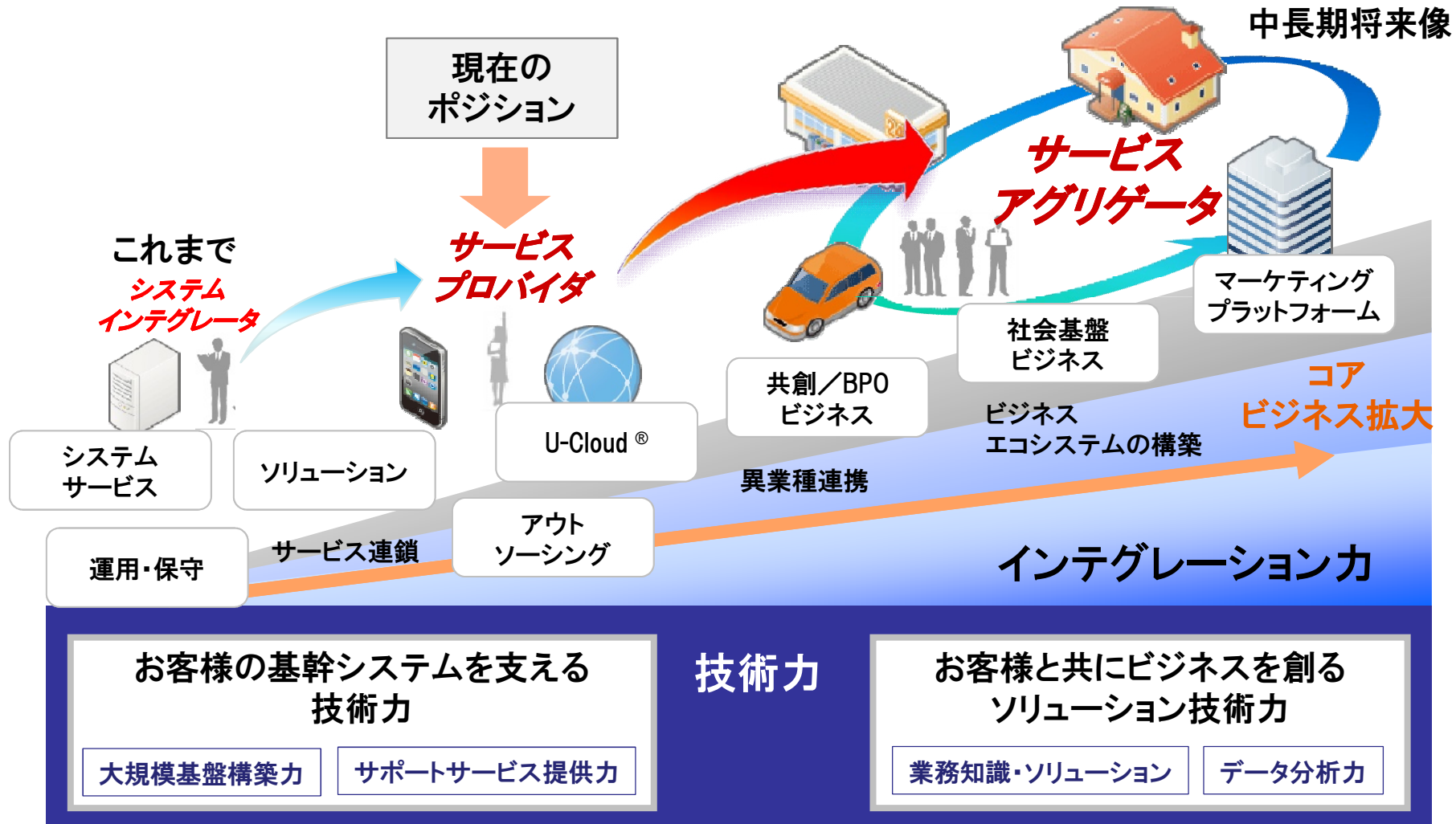
*開発投資等: 研究開発費、事務機械化費、営業支援費
 人件費、経費: 人件費、一般経費、事務所経費

- ✓ 連結配当性向2割を目安に、安定的・継続的な利益配分を目指す
- ✓ 上期末の配当は期初予定通り



中長期成長に向けた将来像

✓ “サービスプロバイダ”から、さらに“サービスアグリゲータ”へ進化



中長期成長に向けて（コアビジネス）

✓ 強みを活かし、コアビジネスのさらなる拡大を図る

強み・特色

お客様の基幹システムを支える
技術力

大規模基盤構築力
(大量トランザクション処理技術、
情報連携技術、
クラウド基盤構築技術)

サポートサービス提供力
(顧客満足度No.1、
全国オペレーションの
サポートサービス)

お客様と共にビジネスを創る
ソリューション技術力

業務知識・ソリューション
(金融勘定系、DM、小売・卸売、CAD、
リース、予約/決済/発券等)

データ分析力
(データマイニング、
データサイエンス等)

トータル・サービスの提供

強み・特色を活かしたコアビジネスの拡大

✓ 10行目となる地銀勘定系パッケージ
Bank Vision®新規採用決定

✓ 大手信金 新規顧客獲得

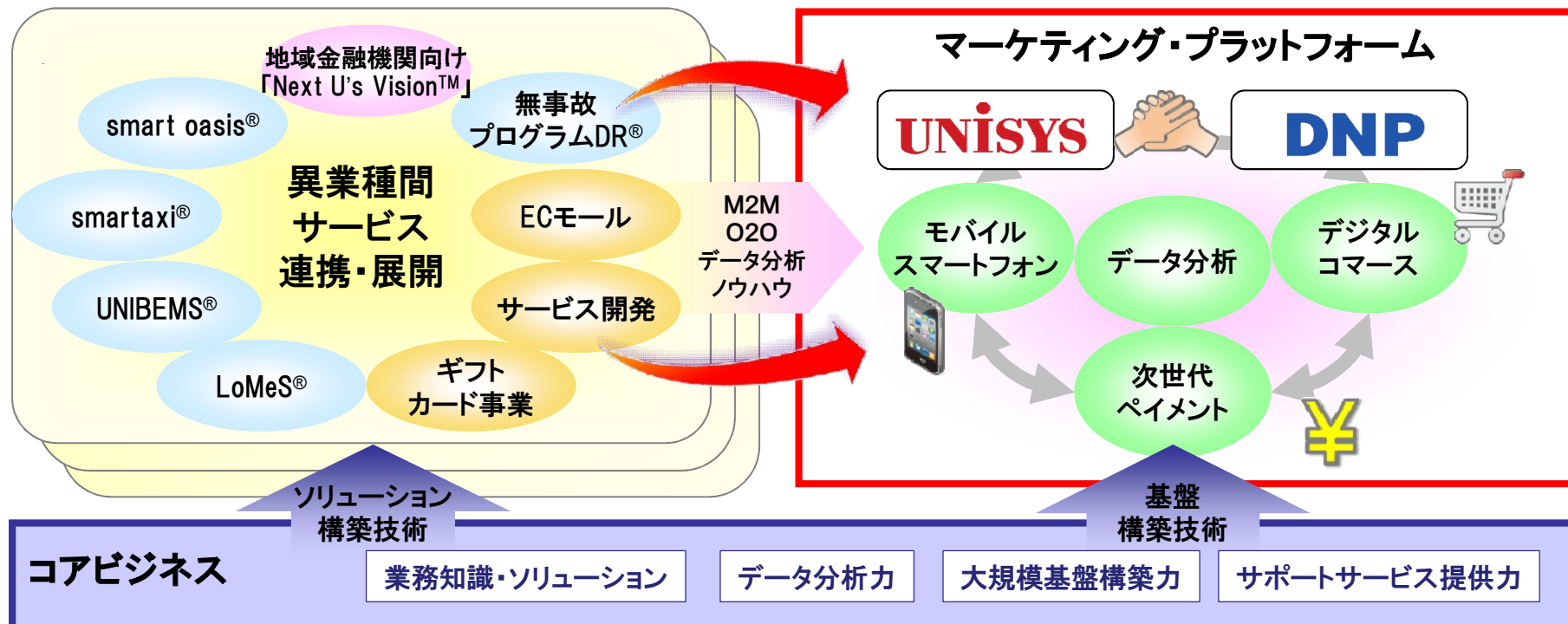
✓ ANA国内線旅客システムを世界初
オープンシステムで刷新、安定稼働中

✓ ユニファイドコミュニケーション領域、
情報系領域でのインフラビジネスの拡大

共創BPOビジネス:異業種間の取り組みの連携・展開強化

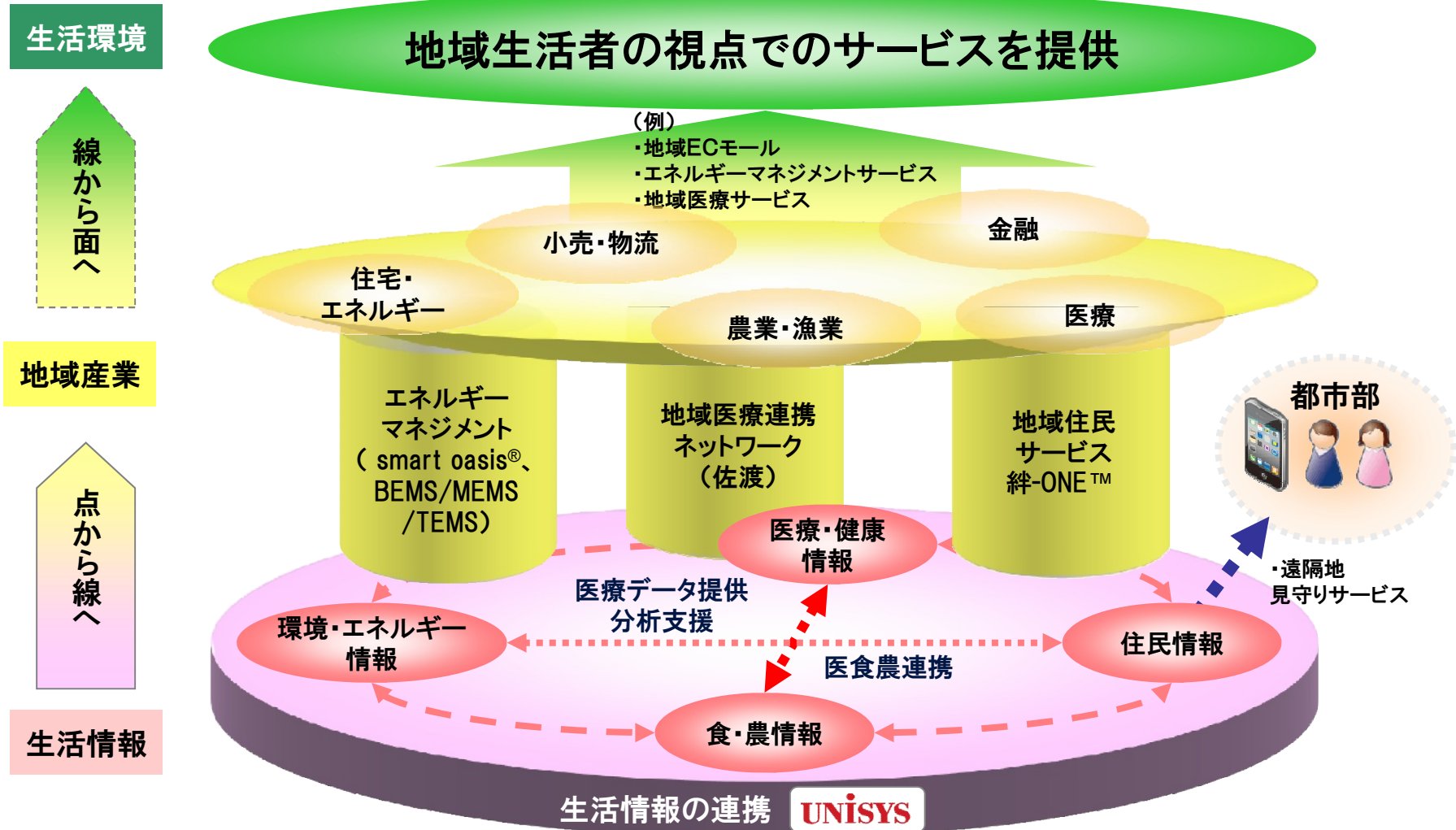
- ✓ 共創ビジネスの業種横断展開
- ✓ DNPとの連携によるマーケティングプラットフォームの展開

異業種間の連携による新たな成長



社会基盤ビジネスの展開

✓ 医療、エネルギーマネジメント等のサービスから、地域総合支援サービスへの展開



全体総括

決算概要

中期経営計画(2012→2014)の進捗

- 売上高は前年同期、見通しともに上回り、好調に推移
- 営業利益は前年同期の反動減をカバーしきれず

(億円)

	上期	前年同期比 増減		見通し比 差異	
		金額	率	金額	率
売上高	1,281	+36	+2.9%	+81	+6.8%
営業利益	24	▲19	▲43.5%	▲1	▲3.8%
経常利益	27	▲17	▲38.2%	+4	+17.5%
四半期純利益	16	+42	-	+2	+17.4%

上期増減要因(前年同期比)

- 売上高
システムサービス等が牽引し増収
- 営業利益
前期大型更改案件の反動減から減益
- 四半期純利益
投資有価証券評価損の減少により増益

(ご参考)

(億円)

	1Q	前年同期比 増減	2Q	前年同期比 増減
売上高	547	+23	734	+13
営業利益	14	+5	10	▲24

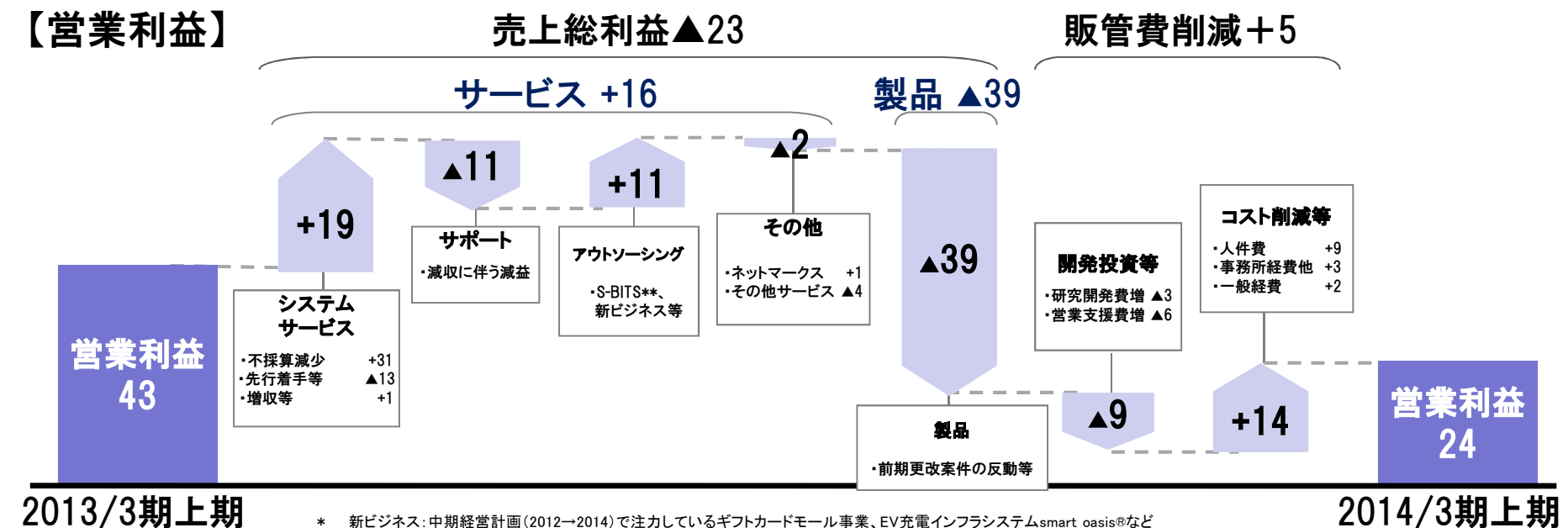
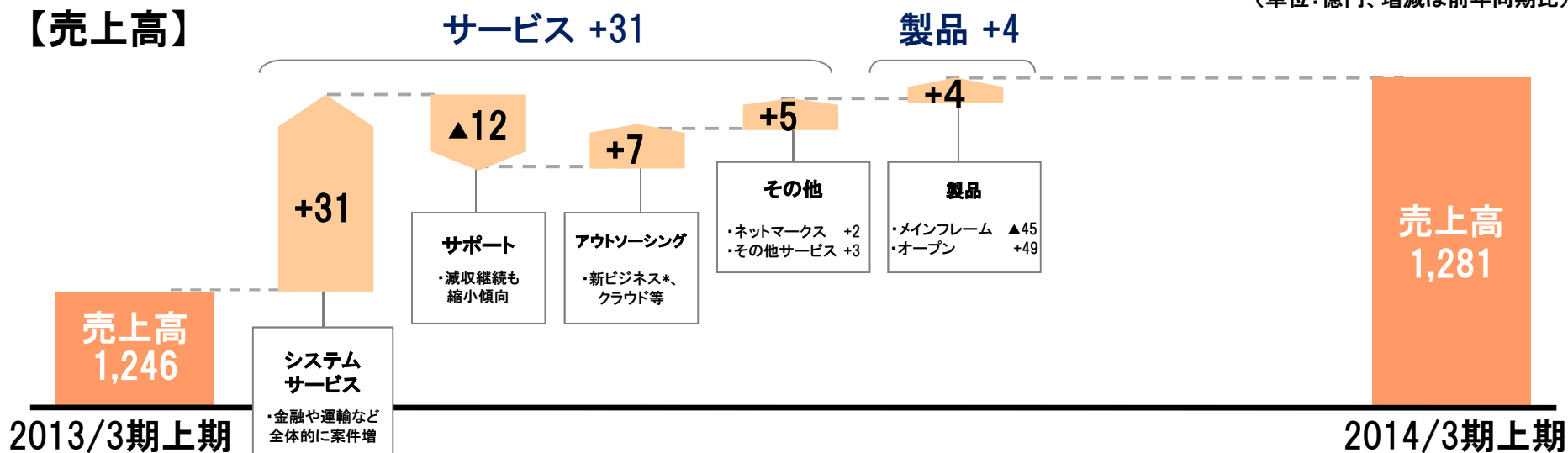
2Q増減要因(前年同期比)

- 売上高
システムサービス等が引続き堅調に推移し増収
- 営業利益
前期大型更改案件の反動減をカバーしきれず



2014年3月期 上期 売上高・営業利益の増減要因

(単位: 億円、増減は前年同期比)



* 新ビジネス: 中期経営計画(2012→2014)で注力しているギフトカードモール事業、EV充電インフラシステムsmart oasis®など
** S-BITS: 次世代地銀勘定系ソリューションBankVision®による共同アウトソーシングサービス

金融機関は反動減により減収となったものの、
全体的に堅調を維持

(億円)

	2014年3月期 上期		マーケット状況
	売上高	前年同期比 増減	
金融機関	368	▲31 (▲7.8%)	前期大型更改案件の反動減(▲67億円)により減収も、 地域金融機関中心に堅調を維持
官公庁	75	▲15 (▲16.4%)	大型開発案件のピークアウトに伴い減収
製造	183	+19 (+11.3%)	案件増に伴い2Qから前年同期比増収に転換
商業・流通	187	+33 (+21.4%)	小売業が引続き活況であり、足元の案件は増加傾向
電力・サービス・その他	469	+30 (+6.8%)	電力向けは前期大型案件の反動減(▲15億円)も、 運輸向けが増収に転じた他、通信向けは堅調を維持

受注高:前年同期の反動減をシステムサービスやアウトソーシングでカバー

(億円)

	2014年3月期 上期				補足
	受注高	前年同期比	受注残	前年同期比	
合 計	1,305	▲2	1,911	▲132	受注高は反動減をカバーし前年同期並みを確保
内訳					
システムサービス	388	+21	274	+16	中小型案件の積上げで受注高、受注残とも増加
サポートサービス	207	▲40	377	▲9	反動減の影響もあり受注高、受注残とも減少
アウトソーシング	136	+31	846	▲141	長期大型案件が3Qでの計上となったため受注残は減少も、受注高は増加
ネットマークスサービス	133	+18	108	+28	UC中心に案件活発化、受注高、受注残とも増加
その他サービス	50	+9	47	+6	—
サ ー ビ ス	914	+39	1,653	▲101	—
ソフトウェア	150	▲69	183	▲9	前期の長期契約案件等の反動減(▲137億円)で受注高は減少
ハードウェア	241	+28	76	▲22	オープン製品の販売が伸び受注高は増加
製 品	390	▲41	258	▲31	—

業績予想は期初公表値(5月9日)から変更なし

(億円)

	2014年3月期 通期予想	2013年3月期 通期実績	前期比増減	
売上高	2,750	2,692	+58	+2.2%
営業利益	120	83	+37	+44.4%
経常利益	113	83	+30	+35.9%
当期純利益	70	13	+57	+459.6%

	2014年3月期 上期実績	前年同期比増減		2014年3月期 下期予想	前年同期比増減	
売上高	1,281	+36	+2.9%	1,469	+23	+1.6%
営業利益	24	▲19	▲43.5%	96	+55	+136.8%
経常利益	27	▲17	▲38.2%	86	+47	+118.3%
当期純利益	16	+42	-	54	+16	+41.6%

財務体質改善は順調に進捗中

(億円)

	2014年3月期 上期実績		通期予想	
	金額	前年同期比増減	金額	前期比増減
営業キャッシュ・フロー	72	▲63	180	▲4
投資キャッシュ・フロー	▲36	+28	▲100	+14
フリー・キャッシュ・フロー	36	▲36	80	+10

	2014年3月期 上期末実績		期末予想*	
	金額	前期末比増減	金額	前期末比増減
総 資 産	1,907	▲70	2,083	+105
負 債	1,208	▲91	1,377	+78
純 資 産	699	+20	707	+27
自 己 資 本	688	+23	693	+28
純 有 利 子 負 債	378	▲30	345	▲64
自 己 資 本 比 率	36.1%	+2.4pt	33.3%	▲0.3pt
ネ ッ ト D / E レ シ オ	0.55倍	0.06pt改善	0.50倍	0.12pt改善

純有利子負債 = 有利子負債 - 現金及び預金

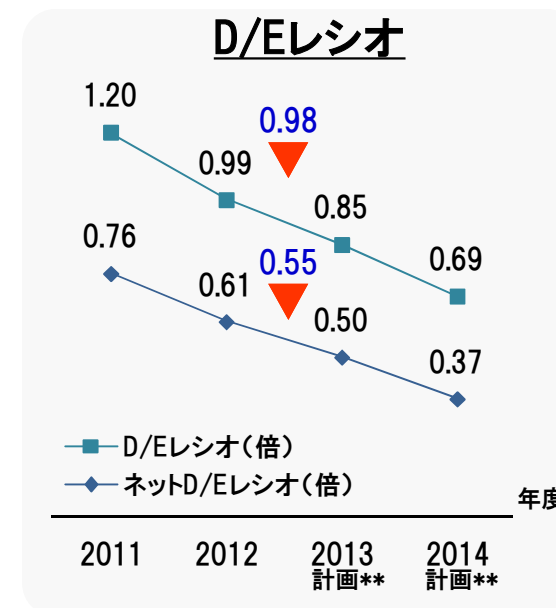
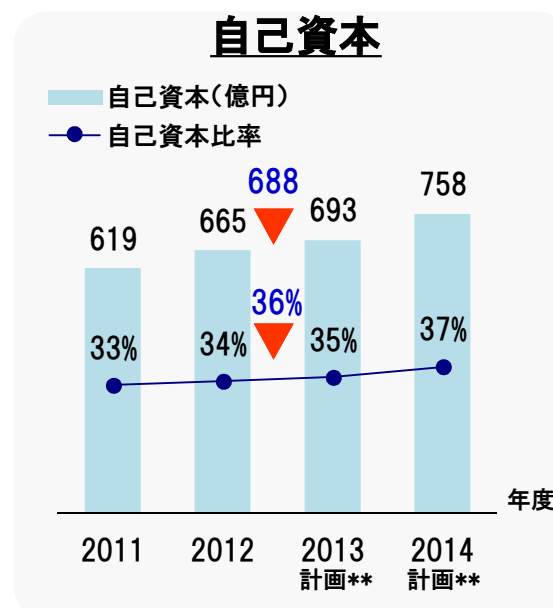
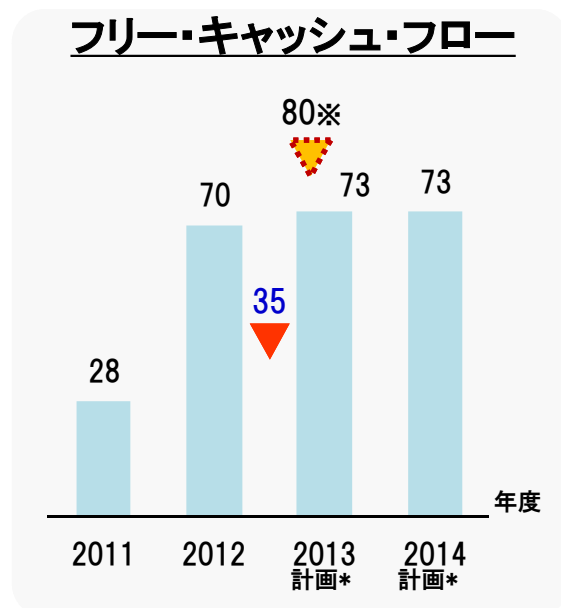
*会計基準変更に伴う年金未認識債務の一括計上による影響見込額(30億円)を反映

キャッシュ・フローおよびD/Eレシオの改善に向け順調に推移

キャッシュ・フローを改善し、財務体質を強化

- 確実に計画を達成し、利益を積み上げることで、自己資本を充実させる。
- 適切な範囲内(減価償却の範囲内)での投資を行い、フリー・キャッシュ・フローを安定的に創出する。
- 自己資本の充実を図り、有利子負債を適正な水準に圧縮することで、D/Eレシオの改善を図る。

▼ 今年度上期実績



※ 現時点での通期見直し

* 中期経営計画(2012→2014)での計画

** 会計基準変更(予定)に伴う年金未認識債務の一括計上による影響見込額(30億円)を計画に反映

全体総括

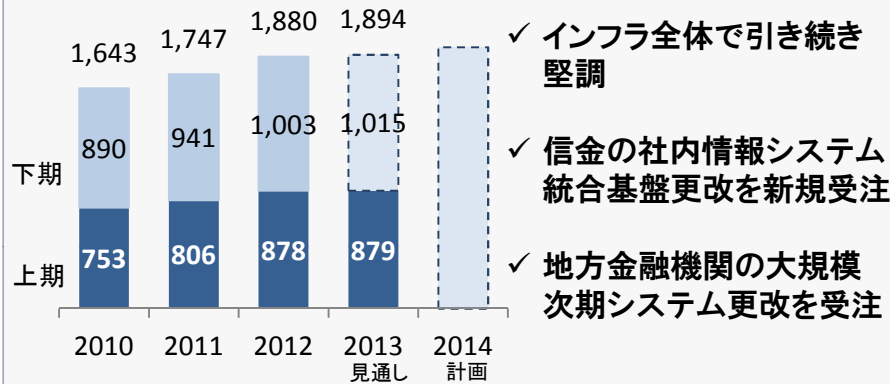
決算概要

中期経営計画(2012→2014)の進捗

✓ インフラサービス／運用・保守サービスの強化策によりトップラインが順調に推移

【インフラサービスの強化】

インフラ関連売上※(億円)

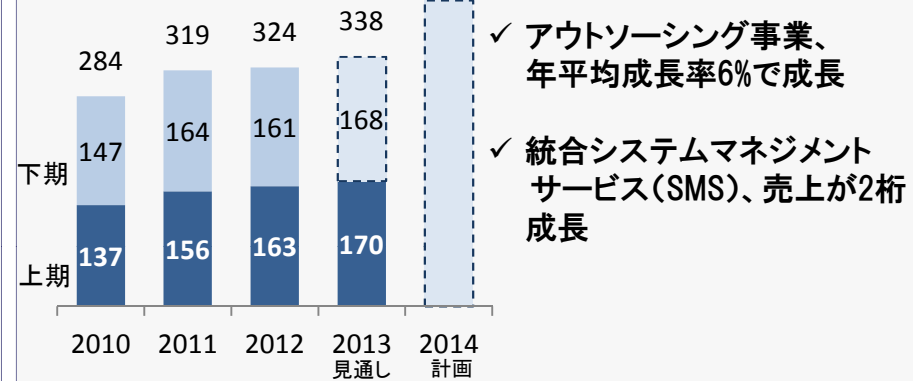


- ✓ インフラ全体で引き続き堅調
- ✓ 信金の社内情報システム統合基盤更改を新規受注
- ✓ 地方金融機関の大規模次期システム更改を受注

※サポートサービス、アウトソーシング、ネットマークスサービス、ソフトウェア、ハードウェアの合計

【運用・保守サービスの強化】

アウトソーシング売上(億円)



- ✓ アウトソーシング事業、年平均成長率6%で成長
- ✓ 統合システムマネジメントサービス(SMS)、売上が2桁成長

【ソリューションサービスの強化】

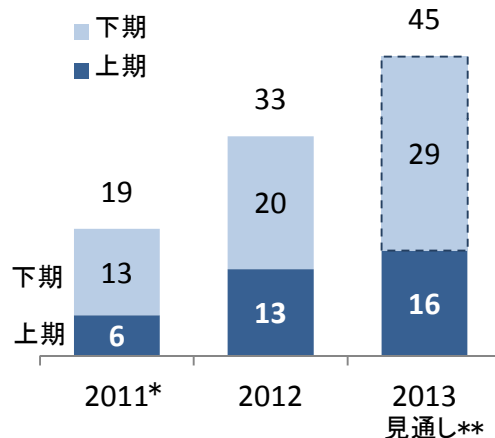
- ✓ 導入型ソリューション、引き合いが前年同期比50%増
・「CoreCenter[®]」シリーズ、2社稼働開始、4社新規受注
- ✓ ERPパッケージ「COMPANY[®]」、3社受注、累計で43社
- ✓ 導入体制を、下期より強化

【お客様の海外進出支援強化】

- ✓ 地域金融機関の取引先の海外進出支援に関する業務提携
- ✓ 東南アジア現地駐在員を増員し体制強化
(インドネシア、タイ、シンガポール)

- ✓ 共創BPOビジネスは、お客様とのビジネス連鎖が活発化
- ✓ 社会基盤系ビジネスは個々のビジネスが順調に進捗

新ビジネス売上高(億円)



* 一部子会社、個別案件売上分を含めて再集計
 ** 現時点での通期見通し

【共創／BPOビジネスモデルの確立】

- ✓ 静岡県信用金庫協会(12信用金庫)の手形管理業務の受託
- ✓ イオン直営店舗(192店)のネットスーパーが全面稼働
- ✓ 国内14空港のANAラウンジにて、デジタルコンテンツサービス「LoMeS®」をDNPと連携し展開

【社会基盤ビジネスへの進出】

- ✓ エネルギーマネジメント、MEMSが累計1万戸突破
- ✓ NEXCO西日本管内「電気自動車用急速充電設備」にて充電インフラシステムサービス「smart oasis®」提供(急速充電システムでシェア6割)
- ✓ ドライブレコーダー(DR)拡大および横展開(累計1万台突破)
 - ・踏切監視サービス、業界初のクラウド提供
 - ・災害監視カメラサービス「サイカメラZERO™」、日本気象協会と共同で販売
- ✓ 地域金融機関を核に、地域社会基盤構築プロジェクト「Next U's Vision™」開始



DNP×UNISYS

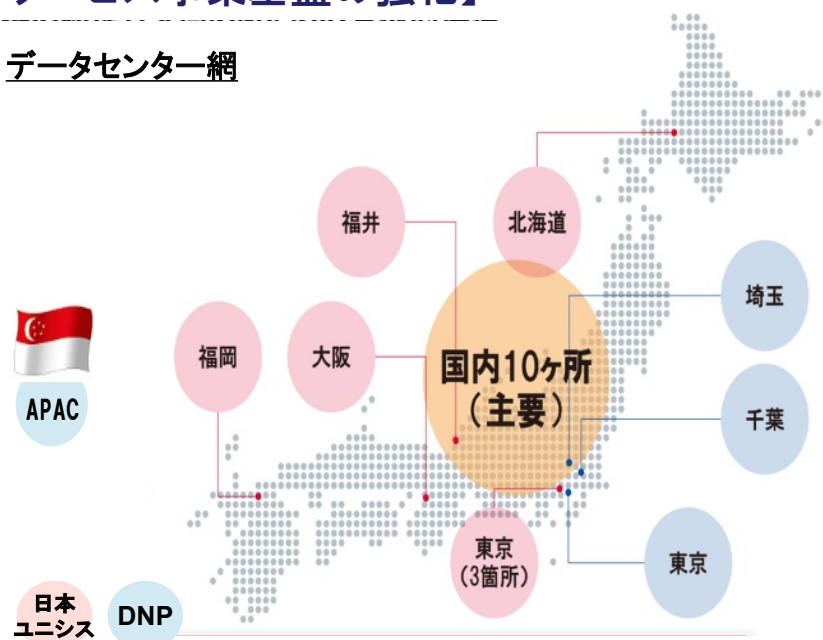
- ✓ 販売連携の活発化により案件数が増加(商材・サービス・事業連携)
- ✓ 両社の最新データセンター連携により国内最大級のサービス網構築へ

【マーケティング・販売連携】

- ✓ 販売連携を全国にて推進。案件が活発化(累計約460件/9月末現在)
- ✓ 横展開可能な連携モデル案件を複数件受注
(地域金融機関向けBPOモデル、DNPビジネスとユニアデックス導入・保守サービスを連携など)
ex) プリントBPO、Webコンテンツマネジメントシステム

【サービス事業基盤の強化】

データセンター網



※DNP埼玉DCではU-Cloud®基盤を採用していません

- ✓ DNPの最新データセンターにて、当社U-Cloud®基盤の採用
- ✓ 当社グループとDNPの連携により総合支援体制を確立
- ✓ クラウド連携、運用・保守・コールセンター統合による運用効率化

2013年10月 千葉県柏でDNP大型データセンター竣工



延床面積 10,580平米(850ラック)

<サービスメニュー>

- ハウジングサービス
- クラウドIaaSサービス
- クラウドホスティングサービス
- ホスティングサービス
- 運用サービス

U&U

Users & Unisys

UNISYS

(注意)

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。